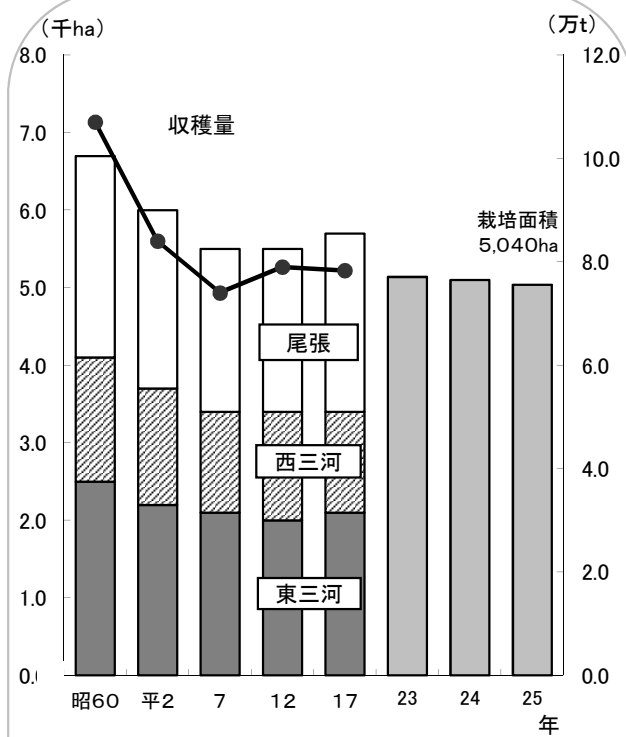


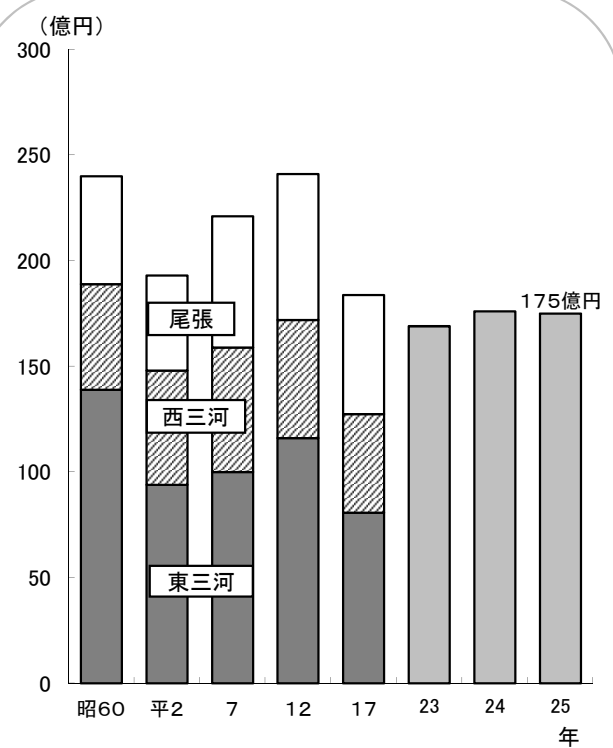
果 樹

《果樹栽培面積と収穫量の推移》



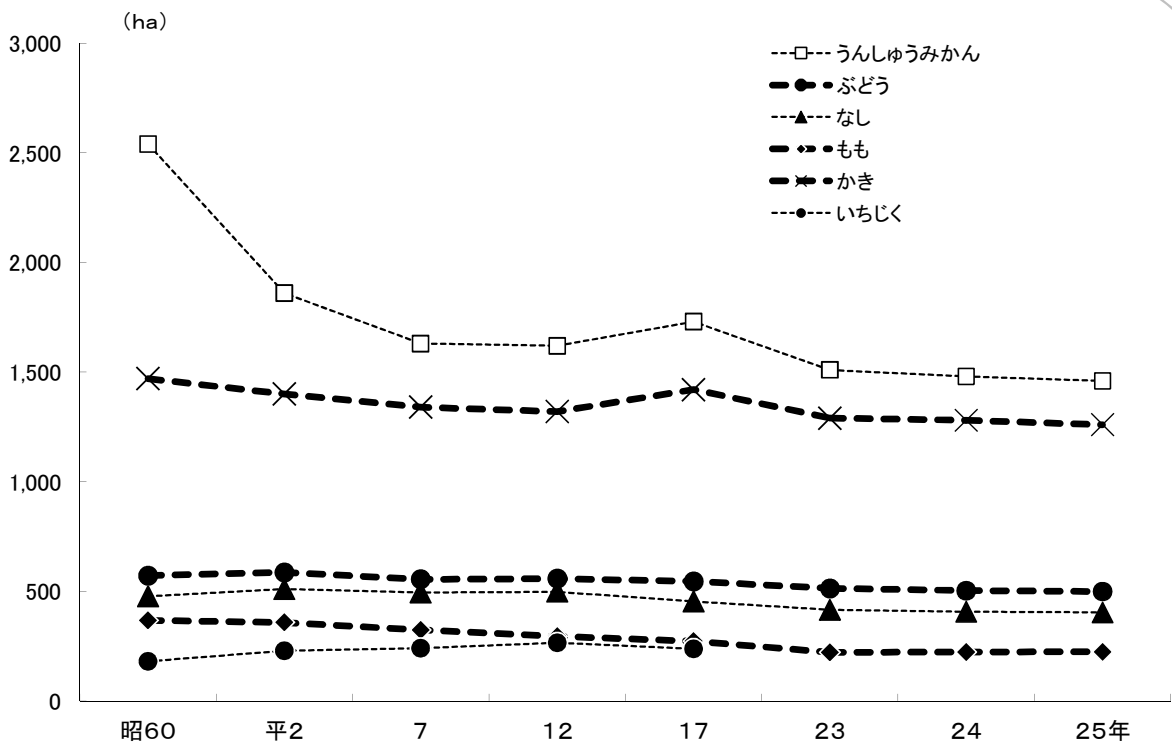
(出典：農林水産統計)
昭和51年から平成にかけての栽培面積の減少は、主に生産が過剰傾向にあった「うんしゅうみかん」の園地転換によるものである。近年、栽培面積は、微減傾向にある。

《果樹産出額の推移》



(出典：生産農業所得統計)
平成25年の品目別の産出額は、「うんしゅうみかん」63億円、「ぶどう」33億円、「日本なし」18億円、「かき」25億円、「もも」7億円、「いちじく」20億円となっている。

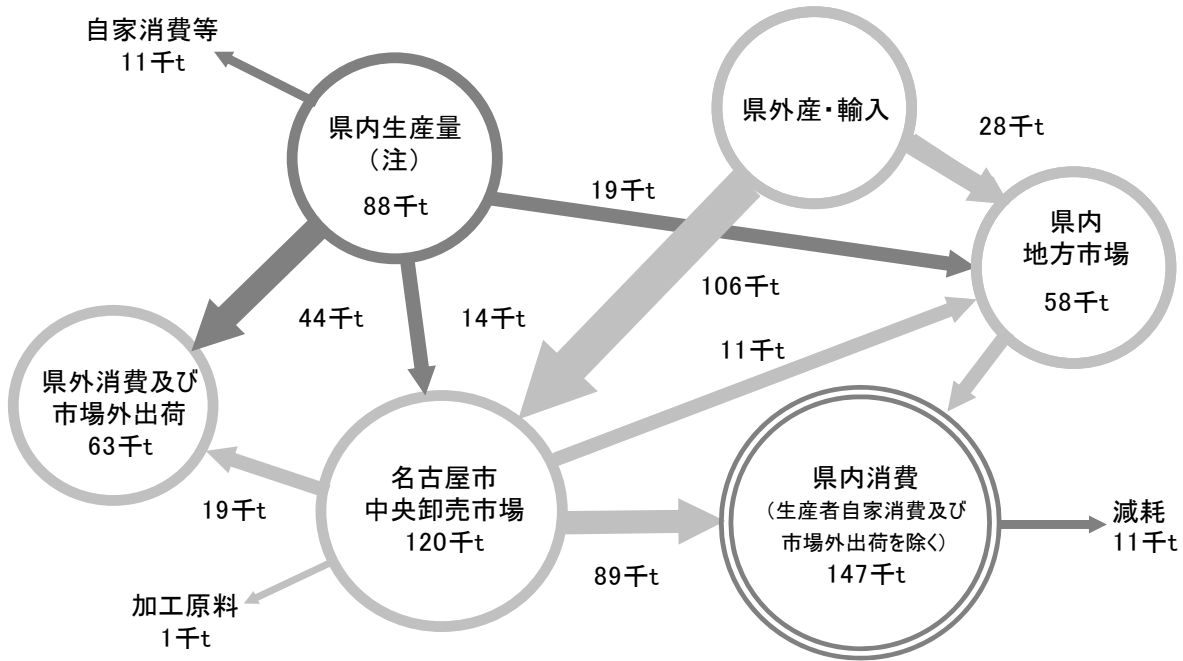
《果樹の主要種類別栽培面積の推移》



(出典：農林水産統計、「いちじく」のみ東海農政局統計部生産流通消費統計課調べ)
昭和から平成にかけて「うんしゅうみかん」の栽培面積が大幅に減少したが、平成に入ると栽培面積に大きな変動はない。主要種類別の栽培面積は「うんしゅうみかん」が1,460haで最も大きく全体の29.0%、次いで「かき」が1,260haで全体の25.0%を占める。

《果実流通の概要》

(平成25年)

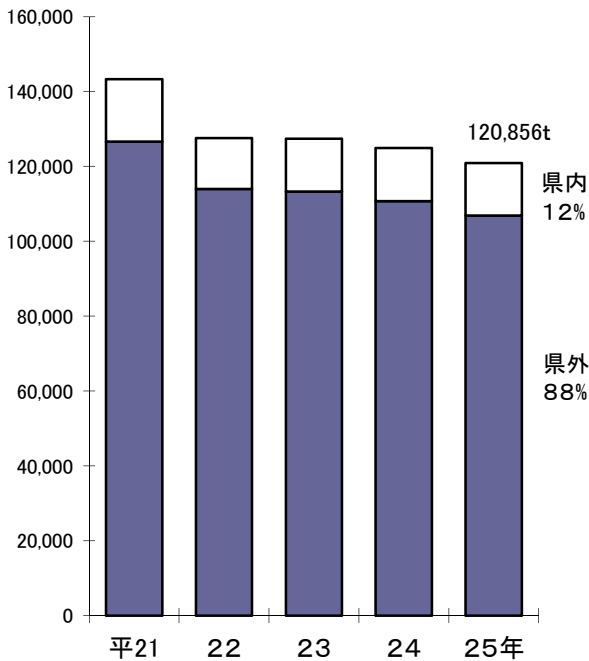


(出典: 園芸農産課試算)

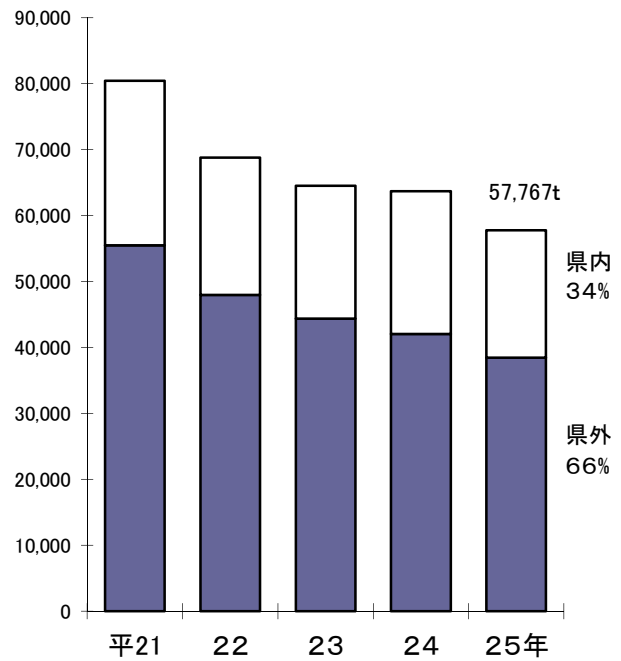
(注) 農林水産統計で統計値が出ている品目のみ(果実的野菜を含む)

《県内市場過去5カ年の入荷量推移と県内産果実が占める状況》

名古屋市中央卸売市場における推移



県内地方卸売市場における推移



(出典: 名古屋市中央卸売市場年報)

(出典: 愛知県地方卸売市場年報)

市場外流通の拡大もあり、中央・地方卸売市場ともに、取扱量は減少傾向にある。